

5 京都岡崎の文化的景観 重要な構成要素一覧

種類	No.	名称	所在地	価値	文化財指定等
河川・疏水	1	琵琶湖疏水鴨東運河	京都市左京区南禅寺草川町・岡崎法勝寺町・岡崎円勝寺町・岡崎成勝寺町・岡崎最勝寺町・岡崎西天王町・岡崎徳成町・聖護院蓮華蔵町・聖護院東寺領町・下堤町	明治23年(1890)に竣工された琵琶湖疏水の内、南禅寺船溜から矩形に2度曲折し、夷川の船溜を進み、鴨川に注ぐまでの区間。この区間の疏水は、琵琶湖疏水建設目的の中でも、水車による水力利用(製造機械・精米水車)と舟運に利用された。現在、こうした利用は行われていないが、夷川船溜周辺では水車工場への取水口や、そこからの排水口の名残も見られる。舟運の荷上場だった疏水沿岸は「六勝寺のこみち」等として整備され、ソメイヨシノなどが植栽され、水辺の良好な歩行者空間として利用されている。	
河川・疏水	2	疏水分線	京都市左京区粟田口鳥居町・粟田口大日山町・南禅寺福地町・永観堂町・若王子町・南禅寺北ノ坊町・鹿ヶ谷宮ノ前町	疏水分線は、蹴上から京都市北部を大きく迂回するように計画され、全長は8.4kmである。工事は明治20年(1887)着工、同22年に完成した。分水の施設としては、3つのトンネル(第4～6トンネル)と南禅寺境内を通る水路閣とがある。岡崎地域に関わる重要な機能としては、庭園群への水の共有源となっている点が挙げられる。分線からの水を源としている主な庭園は、南禅寺、野村碧雲荘、清流亭、流響院、有芳園などが挙げられる。	【国史跡】琵琶湖疏水(水路閣)
疏水関連施設	3	蹴上インクライン	京都市左京区粟田口山下町、東小物座町、南禅寺福地町・東山区粟田口鳥居町	第三トンネル西口を出た運河の西端から南禅寺町の船溜まで延長320間(581.8m)の山腹に20間1分(36.4m)の落差を克服して船を通航させるために敷設した傾斜鉄道である。平成9年に部分的に解体復元された。インクライン下のトンネルには側壁部下部は煉瓦(イギリス積)と石材が積まれている。アーチ部は煉瓦が線路と直角に交差するように積まれており、道路側から見ると煉瓦がねじられたように見えるため、「ねじれまんぼ」と呼ばれている。	【国史跡】琵琶湖疏水(インクライン)
疏水関連施設	4	蹴上船溜	京都市山科区日ノ岡夷谷町・日ノ岡一切経谷町	明治23年に開通した琵琶湖疏水の第三隧道の出口に設けられた船溜で、舟運のための蹴上インクラインの起点となる。その後、明治45年に、第二琵琶湖疏水の隧道出口が設けられ、二本の疏水の合流点となった。第二琵琶湖疏水の建設時に、京都御所へ防火用水を引く御所水道がつくられた。第三隧道出口は、石造でアーチとし、上部にベディメントを設ける古典主義的な意匠となっている。	【国史跡】琵琶湖疏水(第三隧道出口部)
疏水関連施設	5	旧九条山浄水場ポンプ室	京都市山科区日ノ岡夷谷町・日ノ岡一切経谷町	第二琵琶湖疏水の建設時(明治45年)に、京都御所へ防火用水を引く御所水道がつくられた。そのポンプ施設として設けられたのが九条山ポンプ室である。御所用水関連施設として、特に設計は内務省内匠寮がおこない、片山東熊・山本直三郎が担当した。石と煉瓦の対比を用いて装飾を凝らした瀟洒なネオ・ルネッサンス風建築物であり、琵琶湖疏水側にポーチやオーダー付きのバルコニーを向けている。	
疏水関連施設	6	扇ダム放水路	京都市左京区永観堂町・南禅寺下河原町・南禅寺福地町・南禅寺草川町	明治22年(1889)、集中豪雨により白川及び若王子～南禅寺裏からの出水により多くの被害が出た。こうした水害を受け、第5トンネルと第6トンネルとの間に扇ダムと放水路が造られた。扇ダム放水路は分線の水量調整のほか、南禅寺界隈の庭園群からの排水を受け止める機能を有している。全長707.5mで、片側に管理用の小道が設けられている。扇ダムから鹿ヶ谷道にかけての区間は煉瓦積み、鹿ヶ谷道から南禅寺道にかけての区間は石積み(布積み)で施工されている。	
水利用生業施設	7	竹中家住宅	京都市左京区岡崎円勝寺町57-7, 57-13, 59-14, 57, 59-1	大正5年(1916)に中亀吉が現在地を購入し、以前より操業していた水車を引き継いだ。屋敷は主屋と水車を設けた工場棟からなり、疏水から通水した水路を利用して製麦業を行っていた。戦時中に水車を廃業し、戦後は貸家業を営んでいた。現在、工場棟の東半分は取り壊されているが、水路を含め、水車を操業した当時の構成が残されている。	【京都を彩る庭園や建物】竹中家住宅
河川・疏水	8	草川	京都市左京区粟田口大日山町・南禅寺福地町	南禅寺の塔頭のひとつである最勝院の境内奥から流れる自然河川。蹴上インクラインの築造に伴い流路の一部を付け替えられ、南禅寺参道の南側に参道に沿って西流し、南禅寺船溜へと流れる現在の流路となった。両護岸は石積み、底は砂や土で、良好な環境が維持されている。現在も南禅寺界隈の疏水園池群への給排水水路として機能しており、桜鶴苑、順正、八千代の園池への給水、南禅院、大寧院、對龍山荘、菊水、リフレツ京都、八千代の園池からの排水がおこなわれている。	

5 京都岡崎の文化的景観 重要な構成要素一覧

種類	No.	名称	所在地	価値	文化財指定等
河川・疏水	9	百々川	京都市左京区粟田口鳥居町・岡崎円勝寺町, 東山区堀池町	元々は草川の支流であったが明治20年に蹴上インクラインの築造に伴い流路の一部を付け替えられた。現在の流路では三条通を横断し、蹴上発電所西側を流れている。その後、京都市国際交流会館(旧京都市長公舎)や無鄰菴・瓢亭の疏水園池からの排水も受けながら左京区と東山区との区界を流れ、白川に合流する。	
河川・疏水	10	白川	京都市左京区	比叡山と如意ヶ岳の間の比叡平にその源を発し、京都市街東北部を流れる淀川水系鴨川支流の一級河川。白川は源流となる比叡平がもろく崩れやすい花崗岩帯であるため、谷口一帯に東山山麓で最も大きい扇状地を形成した。岡崎公園以東はその末端部に当たる。また、河床が花崗岩由来の石英を中心とする白砂から成り、川名もそれに起因する。 児童用プールに使用するために設けられた施設跡(鉄製階段、堰等)が残されており、親水利用の歴史を伺うことができる。	
水利用生業施設	11	並河靖之七宝記念館	京都市東山区三条通北裏白川筋東入堀池町	明治期に活躍した七宝作家・並河靖之の邸宅兼工房として造営された。主屋は明治26年の建築で、外観を町家風とした近代和風建築である。庭園は、7代目・小川治兵衛の再初期の庭園作品である。苑池の水は琵琶湖疏水から引かれ、七宝の研磨に使用した水を再利用している。七宝製作が行われた工房、窯場が現存する。	【国登録有形文化財】旧並河靖之邸主屋、旧並河靖之邸工房、旧並河靖之邸窯場 【市歴史的意匠建造物】並河靖之有線七宝の館、並河邸北棟 【市景観重要建造物】市歴史的風致形成建造物】並河靖之七宝記念館 【市指定名勝】並河家庭園
水利用生業施設	12	青山家住宅	京都市東山区三条通北裏白川筋東入堀池町	琵琶湖疏水から取水した水路によって精米業を営んでいた。町家形式の主屋、旧工場棟、借家棟からなる。旧工場棟から白川にかけて水路の跡が残る。白川に面して水路の水を利用した洗い場が設けられている。白川沿いの板塀の外観は、景観を構成する重要な要素となっている。	【京都を彩る庭園や建物】青山家住宅
寺院・疏水園池	13	南禅寺境内	京都市左京区南禅寺福地町・永観堂町・若王子町・南禅寺北ノ坊町・鹿ヶ谷宮ノ前町	亀山天皇が文永元年(1264)に離宮を造営したことに始まる。後に禅寺に改められ、室町時代から江戸時代において臨濟宗五山禅林の最上位に位置した。我が国の代表的な禅宗寺院であり、禅宗文化を語る上で極めて重要な寺院である。 明治期には、南禅寺塔頭群の敷地が上知され、境内の多くが民間に払い下げられた。琵琶湖疏水の開削によって、これらの敷地に質の高い庭園と邸宅建築を有する別邸街が形成されることになった。	【国史跡】南禅寺境内 【国宝】南禅寺方丈 【国重要文化財】南禅寺三門、南禅寺勅使門 【国名勝】南禅寺方丈庭園
寺院・疏水園池	14	金地院	京都市左京区南禅寺福地町	南禅寺の塔頭であり、亀山天皇の離宮跡地とされる。庭園は亀山法王による作庭とも伝わる。当初の姿から多少の改変はみられるものの、「今なお池面緩やかに清水をたたえ、池畔は常緑樹点綴して草苔深く一面に岩盤の聳立あり。嶋橋の配列により幽邃を添え、古代庭園の景致歴然たるものあり。」(指定説明 大正12年3月)と評価されている。	【国重要文化財】金地院茶室(八窓席)、金地院本堂、金地院東照宮 【国名勝】金地院庭園
寺院・疏水園池	15	南禅院	京都市左京区南禅寺福地町	応永年間に足利義持が洛北・鷹ヶ峯に創建したことに由来するとされる。慶長10年(1605)に金地院崇伝によって現在地に移された。 庭園は江戸時代のもので、小堀遠州(政一)が関わっていると伝えられる。方丈の南庭は前面に白砂を敷き、鶴島及び亀島を置く。両島の間中に礼拝石風の平石を配し、庭後には数個の立石を中心とする一群の石組がある。東には弁財天祠の庭園があり、西には開山堂の庭園が、方丈庭園より続く。	【国名勝】南禅院庭園
寺院・疏水園池	16	天授庵	京都市左京区南禅寺福地町	南禅寺の山内、三門の南に位置する塔頭。暦応2年(1339)、第15世虎関師錬によって南禅寺開山無関普門の塔所として創建されたが、明徳4年(1393)、文安4年(1447)には焼失、さらに応仁の乱で荒廃した。その後、玄圃霊三の代の慶長7年(1602)に、細川幽斎の援助を得て再興された。 客殿は慶長7年(1602)の建築で、間取り方丈形式の建物であり、平面や細部に中世の伝統的な様式がみられる。境内には枯山水の方丈前庭と園池と築山を伴った書院南庭がある。	【市指定建造物】客殿、表門

5 京都岡崎の文化的景観 重要な構成要素一覧

(3/5)

種類	No.	名称	所在地	価値	文化財指定等
寺院・疏水園池	17	大寧軒	京都市左京区南禅寺福地町	かつて南禅寺の塔頭寺院であった大寧院の地が、明治政府の社寺領の上知により民間所有となった。明治30年頃に呉竹弥太郎の所有となり、環翠庵が営まれた。同39年には原弥兵衛の手に渡り庭園の大改修を行った。現在は再び南禅寺へと還っている。 琵琶湖疏水から取水した庭園を有する。東山三十六峰の一つ大日山をのぞみ、落差を利用した3mの滝が流れとなり池へ注ぎ込む構成である。	
南禅寺別邸群・疏水園池	18	無鄰菴	京都市左京区南禅寺草川町	明治27年(1894)頃に政治家・山縣有朋の別邸として築造された。7代目・小川治兵衛の作庭による琵琶湖疏水の水を利用した庭園に加え、和館(母屋)、洋館、茶室が現存している。無鄰菴の築造が南禅寺界隈の別邸街の形成の契機となった。	【国名勝】無鄰庵庭園
南禅寺別邸群・疏水園池	19	洛翠	京都市左京区南禅寺下河原町・南禅寺草川町	明治39(1906)年藤田小太郎がこの地を取得し、京都別邸として建築した。昭和9年に隣の宅地を合わせて現在の姿になった際に、当初の主屋は建て替えられた。作庭は7代目小川治兵衛こと植治である。庭園の一番奥には取水口が設けられ、琵琶湖疏水の水を取り込んで池へと流している。	【京都を彩る庭園や建物】洛翠
南禅寺別邸群・疏水園池	20	八千代	京都市左京区南禅寺福地町	八千代は、安土桃山時代から続く御所御用達の魚問屋で、大正5(1916)年に当地に別荘を建て、戦後からは料亭と料理旅館を営んでいる。庭は旧館部と前庭部と昭和30年代に購入した東庭と裏庭に大別できる。旧館部の庭のうち北西部分は枯山水となっており、南には座敷に面した池庭となっている。池庭の水は琵琶湖疏水から取り入れられている。	【京都を彩る庭園や建物】八千代
南禅寺別邸群・疏水園池	21	南禅寺順正	京都市左京区南禅寺草川町	天保10年(1839)、蘭学医・新宮涼庭が所司代の間部詮勝のすすめに応じて建てた順正書院に由来する。書院の建物は上段の間、次の間、イロリの間を配する。書院に面して池を擁する庭園が築かれている。庭園の西側には石門が設けられている。江戸後期の書院の閑静な佇まいを現在に伝えている。	【国登録有形文化財】順正南禅寺本店(順正書院)書院、順正南禅寺本店(順正書院)石門
南禅寺別邸群・疏水園池	22	清流亭	京都市左京区南禅寺下河原町	塚本興三次が自邸として建築した邸宅で、大正2年頃に竣工している。庭園は小川治兵衛が作庭している。主屋、寄付、立礼席が現存し、京都を代表する数寄屋大工・上阪浅次郎が棟梁を務め、北村捨次郎が実務を担当したと伝えられる。室内意匠は残月の間をはじめ、奇をてらわない伝統的な数寄屋意匠を用いている。小川治兵衛の庭園と一体として南禅寺界隈を代表する上質な別邸建築である。	【国重要文化財】主屋、寄付、立礼席
寺院・疏水園池	23	光雲寺	京都市左京区南禅寺北ノ坊町	南禅寺の境外塔頭。仏殿(市指定建造物)は近世京都を代表する本格的な禅宗様仏殿の一つで寛文5年に造営された。同時期に庭も造営されたと考えられるが、現在の庭園(市指定名勝)は昭和2年に7代目・小川治兵衛によって新しく作庭されたものと推測される。	【市指定建造物】仏殿、鐘楼 【市指定名勝】光雲寺庭園
南禅寺別邸群・疏水園池	24	對龍山荘	京都市左京区南禅寺福地町	南禅寺旧境内地に造営された別荘で、明治29年(1896)に伊集院兼常が木屋町二条の現広誠院より移築した別荘を原型とし、明治38年市田弥一郎がその一部を残して全面改装した。敷地の東側に広がる庭園(国指定名勝)は小川治兵衛の作とされ、明治35年から39年にかけてつくられた。	【国名勝】對龍山荘庭園
南禅寺別邸群・疏水園池	25	白河院	京都市左京区岡崎法勝寺町	琵琶湖疏水から流れを引き込んだ植治作の庭園(京都市指定名勝)を持つ呉服商下村忠兵衛の岡崎別邸。大正7(1918)年に下村家が敷地を取得し、翌8年に建物が竣工した。建物は、武田五一設計によるもの。庭園部分は、昭和57年に建物が取り壊された際にもほとんど改変を受けず、庭園と建物の関係は、造営当初の構成をほぼ保っている。	【市指定名勝】白河院庭園
南禅寺別邸群・疏水園池	26	瓢亭	京都市左京区南禅寺草川町	幕末の元治元年「南禅寺総門外松林茶店」として『花洛名勝図絵』に紹介されている。敷地内を流れる流水は無鄰菴から流入し、旧市長公舎からの水と合流した後、白川へと排出している。当地は無鄰菴と隣接したその立地から、山県有朋をはじめとする財界人らの食事処として活用されたものと考えられる。	【京都を彩る庭園や建物】瓢亭

5 京都岡崎の文化的景観 重要な構成要素一覧

種類	No.	名称	所在地	価値	文化財指定等
南禅寺別邸群・疏水園池	27	洛陽荘	京都市左京区岡崎法勝寺町	洛陽荘は、大正9年(1920)、旧公家・山科伯爵の別邸として26代山科言経(ときまさ)によって建てられた。昭和20年代に高級料亭「濱村」にわたり、その後、警察共済組合が40年程所有した後、平成15年に現所有者が購入し、旅館として利用されている。 庭は、主庭部と前庭、中庭、露地の4つに大別できる。もとは3階建てのビルがあったが、警察共済組合が所有した際、取り壊された。また、現所有者により、ビルは取り壊され、離れの茶室及び露地が新たに建築された。	
南禅寺別邸群・疏水園池	28	流響院	京都市左京区南禅寺下河原町	東隣の清流亭と一体の敷地として塚本与三次邸(福地庵)として造られた。作庭は7代目小川治兵衛こと植治とその長男の保太郎(白楊)である。大正14年に分割され、流響院部分が岩崎小弥太に譲渡される米軍の接收後、昭和23年に岩崎別邸から龍村美術織物の織室苑となり、現在は真如苑に譲渡され流響院と名付けられた。	【京都を彩る庭園や建物】流響院
寺院・疏水園池	29	禅林寺	京都市左京区永観堂町	浄土宗西山禅林寺派の総本山。応仁の乱によって荒廃したが、慶長期までにはほぼ伽藍が復興した。元治元年(1864)に刊行された『花洛名勝図会』に描かれた境内の様子をみると、方丈や本堂、鐘楼などの配置や庭との位置関係が、現在のものと同様であることが確認できる。昭和3年には多宝塔が建築された。	【府指定建造物】阿弥陀堂、釈迦堂、納骨堂、鐘楼、勅使門、中門
寺院・疏水園池	30	満願寺	京都市左京区岡崎法勝寺	元現山を号する日蓮宗の寺院。元禄15年(1702)に現地に移転してきた。本堂は宝永元年(1704)までに造営されたもので、市内の日蓮宗寺院本堂の中では建築年代が古い。庭園には琵琶湖疏水を利用した池がある。	【市指定建造物】本堂、鐘楼、手水舎、表門、文字天満宮本堂、文字天満宮拝殿
歴史的街路	31	二条通及びケヤキ並木	京都市左京区岡崎最勝寺町・岡崎成勝寺町	院政期における二条大路と比定される、古代に由来する象徴的な街路であり、近代においては岡崎地域の東西軸を構成する主要道路となっている。ロームシアター京都及び京都市勤業館の前面にはケヤキ並木が形成されている。	
歴史的街路	32	岡崎通(広道)及びマツ並木	京都市左京区岡崎法勝寺町・岡崎成勝寺町・岡崎円勝寺町	院政期における法勝寺西王路と比定される、古代に由来する象徴的な街路であり、大きな変化なく現在の岡崎通として存続している。岡崎通の内、二条通との交差点から仁王門通の交差点までの区間にはマツ並木が並んでいる。	
歴史的街路	33	神宮道及びマツ並木	京都市左京区岡崎最勝寺町・岡崎成勝寺町・岡崎円勝寺町	神宮道は、第4回内国勤業博覧会の開催に合わせ琵琶湖疏水より南側が建設され、明治30年代に平安神宮の参道として整備された。平安神宮の入口として大鳥居が建つ。神宮道の内、冷泉通との交差点から仁王門通との交差点までの区間には、マツ並木が整備されている。	
歴史的街路	34	慶流橋	京都市左京区岡崎円勝寺町	慶流橋は琵琶湖疏水を渡河する神宮道上の橋りょうである。明治28年(1895)、第4回内国勤業博覧会に際して建設されたことが親柱の擬宝珠銘文に記されている。平安神宮の参道として神宮道の機能に配慮し、鉄筋コンクリート造によって社寺建築風の高欄を模し、大鳥居に合わせた丹塗色に塗装されている。	
博覧会・勤業・文教施設	35	京都市美術館	京都府京都市左京区岡崎円勝寺町	昭和3年(1928)に岡崎公園で大礼記念京都博覧会が開催され、その後、御大礼を記念して昭和8年(1933)に竣工した。建設地は商品陳列所と第一勤業館の跡地で、当時は大礼記念京都美術館と称した。 京都市美術館では、明治以降の京都を中心とした日本画、洋画、彫刻、工芸、書、版画など約3,000点を収蔵している。また、美術・工芸に関する調査研究、近・現代美術の収集、作家活動の助成など、現代の美術・文化の振興にも貢献している。	
博覧会・勤業・文教施設	36	京都市美術館別館	京都市左京区岡崎最勝寺町	大正4年(1915)の大典記念京都博覧会の式典に際して二条離宮内に建設された舞楽殿が、大典終了後に平安神宮の火除地に移築され、大正6年(1917)、京都市公会堂として開館した。木造平屋建の本館と、木造2階建の東館からなっていたが、東館は昭和4年に火災で全焼し、昭和5(1930)年に鉄筋コンクリート造2階建の新東館として竣工した。 昭和39(1964)年からは京都会館別館として用いられていた。平成12年に和風外観を保全しながら内部を全面改修し、京都市美術館別館として開館した。	

5 京都岡崎の文化的景観 重要な構成要素一覧

種類	No.	名称	所在地	価値	文化財指定等
博覧会・勸業・文教施設	37	京都市武道センター(旧武徳殿)	京都市左京区聖護院円頓美町	明治28年(1895)、平安遷都1100年記念に際して、当時不振を極めていた武術の振興をはかるべく、武徳会が設立され、旧武徳殿はその演武場として明治32年に建設された。現在も京都市武道センターとして利用されている。	【国重要文化財】旧武徳殿
博覧会・勸業・文教施設	38	京都市動物園	京都市左京区岡崎法勝寺町	明治28年(1895)に開催された第四回内国勸業博覧会の動物館跡の敷地に、市民の寄付金と市費によって全国2番目の動物園として開園。その後、大正9年(1920)にインクライン下の市有地を利用して敷地を拡張し、現在の動物園域が形成された。戦後、名称は京都市動物園へと変更された。園内には法勝寺の基壇が残る。	
博覧会・勸業・文教施設	39	平安神宮	京都市左京区岡崎西天王町・岡崎入江町・岡崎最勝寺町・聖護院円頓美町	明治28年(1895)に開催された平安遷都千百年記念祭及び第4回内国勸業博覧会の記念殿として建築された。平安宮朝堂院の復元を意図し、大極殿、應天門、蒼龍楼、白虎楼が建築され、会期終了後、平安神宮として神社が創建された。大正2年(1913)には小川治兵衛の作庭により東神苑が竣工し、庭園内の建物として苑内から京都博覧会施設であった建築を移築して尚美館とし、また泰平閣を新築した。	【国重要文化財】平安神宮 【国名勝】平安神宮神苑 【国登録有形文化財】平安神宮額殿、平安神宮齋館、平安神宮神楽殿、平安神宮神門翼廊、平安神宮西祭器庫、平安神宮西神庫、平安神宮西門及び西外廻廊、平安神宮東祭器庫、平安神宮東神庫、平安神宮東門及び東外廻廊、平安神宮透塀及び後門、平安神宮内廻廊、平安神宮南歩廊
博覧会・勸業・文教施設	40	平安神宮大鳥居	京都市左京区岡崎成勝寺町	昭和3年(1928)、昭和御大礼の記念事業として、神宮道に鉄骨及び鉄筋コンクリート造の大鳥居が建築された。この結果、神宮道の平安神宮の参道としての象徴性が強化されることとなった。	【国登録有形文化財】平安神宮大鳥居
博覧会・勸業・文教施設	41	西川家住宅	京都市左京区岡崎円勝寺町	大正期に開設されていた遊園地・京都パラダイスの跡地が分譲された昭和2年(1927)頃に建築された和風の住宅建築。大屋根を銅瓦葺とし、内部には随所に数寄屋風意匠を凝らした良質な近代和風建築である。同建物が残る一角は同時期に建築された住宅群が残り、高塀が連続する景観が広がっている。西川家住宅は、それらの住宅群のうち、規模が大きく質の高い建築として評価される。	【国登録有形文化財】西川家住宅主屋、西川家住宅土蔵 【市歴史的風致形成建造物】西川仁右衛門
歴史的街区	42	岡崎街区	京都市左京区岡崎円勝寺町・岡崎最勝寺町・岡崎成勝寺町・岡崎法勝寺町・岡崎西天王町・岡崎入江町・聖護院円頓美町	岡崎街区は平安末期の院政期に白河街区(白河殿、六勝寺)が開発されたことに由来する。明治28年(1895)の琵琶湖疏水の開削によって、博覧会の会場となって以降、平安神宮の他、常設の勸業、文化施設が整備され、文教地区が形成された。現在、岡崎公園となっている。	
博覧会・勸業・文教施設	43	京都府立図書館	京都市左京区岡崎成勝寺町	明治6年、日本国初の公立図書館として設立された集書院(東洞院三条角)を起源とする図書館。明治42年(1909)に現在地に移転・新築した。移転後の建物は武田五一氏が設計し、当図書館舎が煉瓦造による本格的な建築を手掛ける最初であった。 なお、阪神・淡路大震災に伴う建物被災や生涯学習社会の進展などを踏まえ、平成13年(2001)に、正面部分の壁面を保存しながら建て替えがおこなわれた。	